

実践研究

デイサポートさくらにおける地域交流への取り組み

誰もが、集い・語らえる居場所を目指して

デイサポートさくらは、平成24年に上市市山元地区へ事業所を移転しました。当時、移転に向けた住民説明会では、障がいを持たれた方が地域に来られることに対し、不安の声も多くありました。しかし、健常者と同じように当たり前の権利と自由があると説得してくださった住民の方の後押しもあり、移転することができました。

令和元年度事業計画ソーシャルワークの実践において、「地域との繋がりを拡大する」を事業所目標に掲げました。山元地区は市街地から車で15分ほどの山間にあり、少子高齢化が進む地域です。実践に向け振り返りや分析を行う中で、地域を知り・見方、考え方を変えると、山元地区ならではの資源が見えてきました。利用者の方の多くが、障害が重く、刺激への過敏性を持たれた方々であり、山元地区の自然の多い静かな環境は、利用者さんにとってのびのびと活動できる環境でした。

主となる取り組みは、「消極的な関りから積極的な関りへ」をテーマに、地域内での活動場所を増やすことを目的とした畑探し、地域の特産である蕎麦を使った事業所でのそば祭り等を実施しました。多くの地域の方のご協力を得て、利用者さん

と地域の方が同じ空間で同じ時間、楽しみを共有し、利用者さんにとっては大きな喜びや自信に繋がる機会となりました。今後も、豊かな自然が育む優しさに溢れた、日本の教育・文化の礎である山元地区で、福祉の拠り所となり、誰もが集い、語らえる居場所となれるよう実践を進めていきます。

[デイサポートさくら 河合淳・深瀬和美]



「表現する」を支援するということ～支援者の視点から～

私たちは生活習慣上の意思は当たり前のようにしています。〇〇食べたい、〇〇へ行きたい、〇〇したいなど、普段意識せずに判断しています。でも、障がいを持った方々はどうでしょう。一つ一つが周りの関係する人や環境に左右され、したいことをしたい時に出来ているのでしょうか。

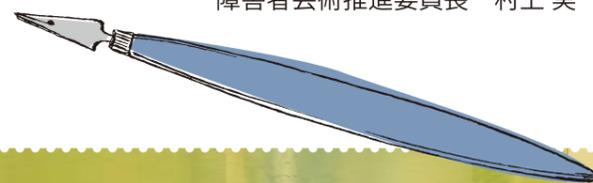
大切なのは、このことを意識するかしないかで支援者の質は変化していくと思っています。障がい者アートへの注目とは別に現場に立つ支援者として意識したい部分です。

当たり前な事がまだまだ自身で決められていない、周りに左右されながら生活しているという事実を受けとめた時に、彼らが日々表現している、絵を描く、ものを創る、唄う、踊る、話す、という行為の受けとめ方が変わっていくのではないのでしょうか。自らの意思で表現

する行為を大切に大事に見守り支援していく、制約された限定的な生活をしている彼らが自ら表現している活動をそういう眼差しで見守っていければと思っています。

この委員会は、法人内で生まれている表現や、活動の中での支援方法などの情報交換、より表現がしやすい環境設定の検討を中心に、地域の関係者とも、「やまがたアートサポートセンターら・ら」の事業と連携しながら活動しています。今後も、より多くの方々が色んな表現活動ができるような現場支援を目指して活動していきたいと思っています。

障害者芸術推進委員長 村上 実



日々是好日

愛泉会で働いて..

愛泉会で働いている職員をリレー形式でつないでいき、日々感じている事、思っている事を語っていただきます。

向陽園
ホームヘルプステーション心音
登録ヘルパー

若狭 和枝



コロナ禍で密を避けながらの温泉、プール、買い物、外食、通院等々、安心安全な外出支援は容易ではありません。ヘルパー全員が利用者さんと自分の健康管理に留意し支援しています。

本人や家族から「待ってたよ」「朝から楽しみにしています」「すっきりした顔で帰ってきたね」の言葉が何よりの励みです。利用者さんの個性を把握し、聴く、待つ、自分で答えを出せるようなお手伝いを心がけています。なかなか思うようにはいきませんが。

コロナを機に身の回りの整理を始めています。先月、楽天野球観戦の懐かしい写真が見つかりました。一緒に過ごしている時間が、お互いに「楽しいね」と言い合えるような大切な時間を今後も作っていききたいと思います。

法人本部
総務課事務員

田中 康寛



今年、約17年ぶりに地元山形へ帰ってきたのですが、コロナ禍ということもありプライベートを満喫することは出来ておりませんが、先日の初雪を見て帰郷したことを強く実感しているところです。

私が愛泉会法人本部にお世話になり早いもので9か月が経ちました。愛泉会は事業所が多く初めは事業所名を覚えるのにも苦労しました。現在も、わからないことが多く右往左往の日々ですが、本部職員の皆さん及び各事業所の事務職員の方々のお力を借り何とか業務をこなしております。

愛泉会がより良い法人となるよう、そして日々、さまざまな障がいをお持ちの利用者様と接している職員の皆さんへ少しでもサポートできるよう一人前になるべく精進してまいります。

グループホーム
支援センター天花
支援員

竹田 朱里



今年で入職して6年目になりました。入職当初は業務を覚えたり利用者さんとの関係性を構築したりするのに精一杯でしたが、日々利用者さんと向き合う中でたくさんのことを気づき、学ばせてもらっています。

事業所ごとに様々な特色がありますが、グループホーム支援センター天花では利用者さんの想いを大切にしており、それを外出にも反映しています。「誰と」「どこで」「何をしたいか」等と要望を聞き、一緒に外出したいお友達や職員と要望に合わせた外出を行っています。

今はコロナ禍にあり、当たり前に出来ていたことが制限され、利用者さんには戸惑いや不安な気持ちがあるようです。そんな気持ちにも寄り添いながら、状況の中で何が出来るかを考え、楽しくより充実した生活を送ることが出来るように支援をしていきたいと思っています。

GALLERY LALA LALA 展示会スナップ

山形・福島・新潟 障がい者芸術交流展 / やまがた障がい者芸術作品公募展 「やまがたでつながるボーダレスアート2020」～きざしとまなざし～

11月6日～11日に山形市悠創館において開催し、713人の方から御来場いただきました。応募いただきました作家や関係者のみなさま、御協力いただきましたみなさまにあらためて御礼を申し上げます。

